



防災の視点から「地域で共に生きる～ご近所福祉のまちづくり」を考えた田舎の防災フォーラム

「野島断層からのメッセージ」
震災と「人とのつながり」
北濃震災記念公園 総支配人 米山 正幸 様

今回は、地域のつながりが不可欠なテーマであるため、土山町民生委員児童委員協議会、土山地域区長会、防災士土山地域会、土山町赤十字奉仕団、土山町福祉推進員連絡協議会、そして4学区の各自治振興会と共催しました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、154名の土山町内外からのご参加をいただきました。

前半は、阪神・淡路大震災を体験され、震災の語り部として活動されている、北濃震災記念公園総支配人の米山正幸氏から「野島断層からのメッセージ」を「人とのつながり」をテーマに貴重なお話をいただきました（詳細内ページ）

後半は、甲賀市社会福祉協議会の桑山信彰氏より、災害にも強い地域づくりを目指して、令和3年4月1日に甲賀市社会福祉協議会内に設置された甲賀市災害福祉ネットワークセンターの紹介を

強い地域のつながりで 災害に備えて

令和3年12月5日(日)
あいの土山文化ホールにおいて、「土山地域田舎の防災フォーラム」を開催いたしました。

今回は、地域のつながりが不可欠なテーマであるため、土山町民生委員児童委員協議会、土山地域区長会、防災士土山地域会、土山町赤十字奉仕団、土山町福祉推進員連絡協議会、そして4学区の各自治振興会と共催しました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、154名の土山町内外からのご参加をいただきました。

前半は、阪神・淡路大震災を体験され、震災の語り部として活動されている、北濃震災記念公園総支配人の米山正幸氏から「野島断層からのメッセージ」を「人とのつながり」をテーマに貴重なお話をいただきました（詳細内ページ）

後半は、甲賀市社会福祉協議会の桑山信彰氏より、災害にも強い地域づくりを目指して、令和3年4月1日に甲賀市社会福祉協議会内に設置された甲賀市災害福祉ネットワークセンターの紹介を

広報

土山がニコリ

土山地域ご近所福祉推進協議会 第4号
令和4年3月発行

アンケートからの声(抜粋)

- ・体験者のお話というのは実感がこもっていてエライ学者が話しているのとは違い頭にとっても素直に入ってきた。
 - ・自分の命は自分で守る。自分たちの地域は自分たちで守る。もう一度心にとめておきたいと思います。
 - ・住民全員がボランティア精神を持ち、地域防災の意識を高めた
- いと思います。日頃の近所づきあい、声掛けを大切にしていきたいと考えています。
- ・婦人会がなくとも、動ける地域の女性でありたいです。
 - ・要支援者を巻き込んだ避難訓練が必要だと思ふ。
 - ・日常の隣近所のコミュニケーションを築いておけば、減災につながるものがよくわかりました。
 - ・不幸な子どもたちを作らないために減災に力を合わせてがんばりたいと思いました。
- ※アンケート原文のまま



自主防災活動の一コマ

米山さん伝授 防災の基本

- ・自分の命は自分で守る!!
- ・自分たちの地域は自分たちで守る。
- ・地域の防災力。普段から防災意識を高めておいて自ら参加する。
- ・地域を守ることは、自分の命を守ることに繋がる。

これからの高齢者サロン

～自律型高齢者サロン～

みんなで考えてみませんか

土山地域ご近所福祉推進協議会の取り組みを始めてから、土山地域における課題を考えていく中、高齢世代の増加は特に注目してきた課題のひとつです。

令和元年度には各区・自治会で取り組みがはじまり、「高齢者サロン」の数が所におさまるまで、この「高齢者サロン」の継続に必要なことを知るため、現状の取り組みなどの聞き取りを行いました。多くの「高齢者サロン」では「担当者がいない」「プログラムが苦しい」「参加者が

固定化している」などの声があり、現状の課題を知らることができました。それらの課題を基に、今年から、これからの「高齢者サロン」が継続して行われるため、「自律型高齢者サロン」と銘打って、サロンを必要とする高齢者の方々が参加者としての立場にとどまらず、自らがやりたいと思うことを自ら行う方法で開催していくサロンを作っていく取り組みを始めました。

その取り組みにおいて、会場として使用したいと思った一つが、地域のみなさんが自由に使えるサロンとして開放された「坊っちゃんサロン」です。

この「坊っちゃんサロン」は、無料で誰でも利用できます。予約の申請などの書類手続きもなく、利用する際には、屋内に設置されている行事予定ボードでそれぞれお互いが利用状況を確認しながら利用するようにもなっています。誰にとっても使いやすい場所になっていきます。

土山地域ご近所福祉推進協議会が進めてきた「自律型高齢者サロン」は、開催のために誰かが負担を感じないようにしたいという点を重要視して考え

ており、「坊っちゃんサロン」のような気軽で、自由に開放されている場所。今後このような場所を提供していただく方を大切にするため、その場所を拠点とした「自律型高齢者サロン」を広げていくことができればと考えています。

福祉推進員研修会

できることから一歩進めましょう。

令和3年10月2日(土)



坊っちゃんサロン(場所)

「甲賀市災害福祉ネットワーク協議会」の中島仁史氏より福祉を視点にした防災活動の事例報告をしていただきました。

自分の命は自分で守る。地域は地域で守る。日頃の隣近所とのつながりが、防災や減災につながる。わかるフォーラムになりました。

「甲賀市災害福祉ネットワーク協議会」の中島仁史氏より福祉を視点にした防災活動の事例報告をしていただきました。

自分の命は自分で守る。地域は地域で守る。日頃の隣近所とのつながりが、防災や減災につながる。わかるフォーラムになりました。

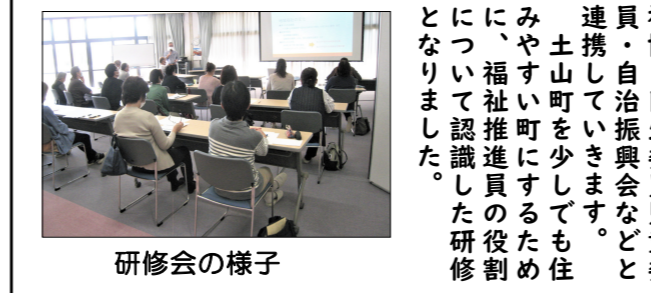
昨年年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により、予定の開催時期が遅れたものの、昨年年度にも増して感染防止対策を徹底し、短時間での開催をするのができました。

まず、甲賀市社会福祉協議会より「福祉推進員の役割」についてお話がありました。

土山地域は少子高齢化の加速が顕著で、山間部では高齢化率45%を超えておられ、人口減少が顕著になってきています。

また、隣近所とのつながりの希薄化などから見えにくい方法がつかず、なかなか福祉推進員は活動を進めることができていません。

研修会の参加(自己研鑽)、②地域の見守り(発見)(実践)④区長や民生委員児童委員、専門職へつなぐ(連携)などがあることは、すぐにはできませんが、できることから一つでも実行することから地域福祉の歩みを進めたいと考えています。



研修会の様子

でも前に進めていきたいと思います。

続いて土山地域ご近所福祉推進協議会会長の中島仁史氏より「ご近所福祉推進協議会の取り組みの報告」をしました。

課題としては同じで考え、総合的に福祉を以て共に生きるため、①見守り、支えあいの仕組みづくり②地域の居場所づくり③福祉ネットワーク④災害に強い地域づくり、今後の予想される人口減少から、お互いのつながり・連携・自立・防災がますます重要であり、行政・社協・民生委員児童委員・自治振興会などと連携していきます。

土山町を少しでも住みやすい町にするため、福祉推進員の役割について認識した研修となりました。

発行元 土山地域ご近所福祉推進協議会

メンバー 中島仁史 坂本正幸 辻林修 大家晴美 中村良治 竜王真紀
福井厚司 関司直子 日野谷隆 井上和美 大橋美耶 中村弘子

【お問い合わせ先】甲賀市社会福祉協議会 土山地域福祉活動センター(大久保孝仁)
Tel 0748-66-2001 Fax0748-66-2004 〒528-0211 甲賀市土山町北土山2058

